令和六年度

高等学校入学者選抜学力検査問題

国　語

注意事項

一　問題は、一ページから七ページまであります。

二　解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。

一　次の文章には、島への転居を嫌がっていた中学生の東灯子（ひがしとうこ）が、父と祖母の待つ島へ転居するために、祖母を心配する母と飼い犬のみかんと共に、船に乗っているときのことが書かれている。この文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（13点）

乗船して三十分、風がすこしおさまってきたのか、定期船の上下左右のうねり幅（あ）がすくなくなった。窓にときおり、ななめにかたむいた水平線が見える。乗船するときは、はるかかなたにうすぼんやりと見えていた島影が、水平線上に、かなりはっきり確認できるようになった。ひらべったい島だ。まん中あたりにポツンと灯台が立っている。

まだほんの小さかったころ、灯子はあれを見て、やかんのふたを連想した。地球全体が大きなやかんで、島がふた、灯台がつまみの部分。灯子の名前のもとになった灯台が、地球のまん中にあると思うのはわるくない気分だった。

「灯子の灯は灯台の灯。」

父から何度もきいたことがある。海にでている者は、あれを見ると、帰ってきたんだなあって、ほっとするんだ。まっ暗な夜だったら、あの明かりがどんなに心強いか。まわりのひとに安心感をあたえられるような、そんなひとになってもらいたくて、灯子ってつけたんだ。

父は生まれそだった島をはなれたけれど、こどもには、島を連想する名前をつけた。あわないからはなれた、などという単純なものではなく、父の心の中では、故郷は圧倒的に大きな存在としてありつづけていたのだろうと、いまになってはさっ（い）することができる。

けれども灯子自身は、みんなに安心感をあたえるどころか、自分が不安でたまらない。あそびにいくときは、島影を見ると［　　］した。小さい場所であることが、冒険心をくすぐった。冒険はもどるところがあるから楽しめる。これからは、そこで暮らしていくのだ。近づいていくにつれて、出口のないトンネルにはいっていこうとしているみたいで、胸がおしつぶされそうになる。覚悟は決めたはずだけど、へだたった場所で、しかも、なかばヤケになって決めた覚悟は、現在進行形ではぜんぜん通用していない。

高速船は、そんなにいそがなくてもいいのにと思えるほどに、ずんずん島に近づいていく。コンクリートの防波堤が見えてきた。その内側に、たくさんの漁船が係留（注①）されている。うごいている船はいなかったけれど、ひとの気配があるところにきたような気がして、なんとなくほっとする。

エンジン音が小さくなり、船は速度を落とした。防波堤の中に進路をとって、ゆっくり船つき場へと進んでいく。乗客たちは下船の準備をはじめ、母も立ちあがって腰をのばし、顔色はまだ白かったが、のろのろと荷物をまとめはじめた。灯子は席を立ち、みかんのリード（注②）をひっぱって、そとのデッキ（注③）にでてみた。

船つき場には、たくさんのひとがあつまっていた。船がつくと、各家で電話注文した食べ物やいろいろな生活物資をとりに、あるいは島のそとから送られてくる荷物をとりに、島のひとたちがあつまってくるのだ。日曜日だからだろうか。きょうはちょっとひとが多い気がする。

灯子はむかえにきているはずの、父の姿をさがした。が、そのまえに祖母を見つけた。まえのほうにあつまっているひとびとのすこしうしろにいる。祖母は大柄だ。あいかわらず日焼けしたあさ黒い顔をして、背筋をしゃんとのばし堂々と立っている。灯子は気抜けした。やはりどう見たって、あの祖母には「お年」も「心細い」もぜったいに似あわないではないか。

父は祖母のさらに後方で、両手をズボンのポケットにいれ、肩をすくめるようにして、ひとりでぽつんと立っていた。灯子は父にも見えるように、みかんを胸のあたりまで高くだきあげて手をふった。父も気づいて、片手をポケットからだして小さくふった。

ⓐ

そのとき、最前列にいたひとたちが布をひろげた。シーツのような白い布だ。大きな文字が書いてある。

かんげい

白い布が風にはためき、みかんがそれにむかってワンワンほえだした。だれが歓迎されているのだろうと、灯子はあたりを見まわした。乗客たちは乗降口付近にあつまっているが、だれも布を見ていないし、それらしいひともいない。そのうち灯子は、「かんげい」の文字の下に、それよりすこし小さい文字で、「ひがしさん」と書いてあることに気づいた。

布を持っているのは七、八人のこどもたちで、全員が自分を見ている。みんな、満面の笑みだ。手をふってくれている子もいる。ややうしろに立って、ほほえみながら両腕を交差するようにしてふっている、男のおとなのひともいる。

灯子は注④はめんくらった。それから、胸がドキドキしてきた。出口のないトンネルなんかではない。ここにはたくさんのひとがいる。まだ見たこともないはずのわたしを……ここにくるのがいやでしかたがなかったわたしを、歓迎してくれている……ふいに、のどの奥にあついかたまりがこみあげてきた。

てのひらで目のあたりをこすり、鼻水をすすりあげながら、灯子は心をこめて大きく手をふりかえした。それから、みかんをつれて、いそいで乗降口にむかった。

（杉本りえ『地球のまん中　わたしの島』による。）

（注）① 綱などでつなぎとめること。　② 犬をつないでおくひも。
③ 船の床の部分。　④ 驚きとまどった。

問一　二重傍線（〓）部ⓐの漢字に読みがなをつけ、ⓘのひらがなを漢字に直しなさい。

問二　次のア～エの中から、波線（〰）部と同じ構成の熟語を一つ選び、記号で答えなさい。

ア　新学期　　イ　不器用　　ウ　一貫性　　エ　天地人

問三　幼少のころの灯子が、島の灯台を見て悪い気がしなかったのはなぜか。その理由を、三十字以内で書きなさい。

問四　次のア～エの中から、本文中の［　　］の中に補う言葉として、最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　わくわく　　イ　いらいら　　ウ　はらはら　　エ　おどおど

問五　次のア～エの中から、本文中のⓐで示した部分における、灯子の祖母と父の様子と、その表現について説明したものとして、最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　気が強く元気な祖母と素朴で実直な父の様子を、比喩を用いて描いている。

イ　体格が良く立派な立ち姿の祖母と人混みから離れ控えめな父の様子を、対照的に描いている。

ウ　頑固で威厳のある祖母と心優しく穏やかな人柄である父の様子を、体言止めを用いて描いている。

エ　物静かで繊細な祖母とお人よしで無邪気な父の様子を、主観的に描いている。

問六　傍線（〓）部から、灯子が島のひとたちを見て、胸がいっぱいになっていることが分かる。灯子が胸がいっぱいになっているのは、島のひとたちのどのような様子を見たからか。島に近づくにつれて灯子が不安を募らせている心境をたとえた表現を含めて、六十字程度で書きなさい。

二　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（15点）

増えるという能力はいったいいつ生物に与えられたのでしょうか？それは生命の誕生以前だと考えられています。ただし、生物に増える能力が与えられたというよりは、増える能力を持った物質が生物になったと言うほうが正しいでしょう。

最初の生命はアおそらく38億年くらい前に生まれたと言われています。生命が生まれる前の原始地球の環境は、まだ大陸はなく、ほとんどが海で覆(あ)われているような状態だったようです。

そんな環境で、落雷やうちゅう(い)からの放射線、隕石(いんせき)、鉱物による反応、地下からの熱水など、いろいろな過程でアミノ酸など最初の生物の材料となるようなイ有機物質が生まれました。有機物質はそのうち地球上のどこかで濃縮(う)されて「ダーウィン[注①]のスープ」と呼ばれる有機物質[注②]のごった煮のようなものが生まれました。そのごった煮の中で増える能力を持った原始的な生命の元が誕生したと想像されています。

ウしかし、それがどんな物質からできていたのかもわかっていませんし、どこでそれが起きたのかもわかっていません。一応、今のところ一番人気のある説は[注③]「リボヌクレオチド」（ＲＮＡ）と呼ばれる物質が、海底の熱水噴出孔(こう)（溶岩で温められた水が噴き出しているところ、要するに海底にある温泉です）か、地上の熱水噴出孔で生まれたとする説ですが、エいまだにだれも再現できていません。また、増える能力を持った物質は1種類ではなくて、複数の物質がお互いを増やしあいながら全体として増える分子の集合体だったという説もあります。

いずれにせよ、生命の誕生の元は、自らを増やす能力を獲得した何かだったと考えられています。この説以外にも生命の起源の仮説は様々あるのですが、増える能力を持った物質が生命の元となっているのはほぼすべての仮説で共通するところです。

生命誕生がどこでどんな物質から起きたのかも分からないのに、どうして「増える能力をもっていた」なんてことが断言できるのでしょうか。それは今の生物の姿を考えると、進化というオしくみなしでは達成できないはずで、そして進化を起こすためには「増える能力」がどうしても必要だからです。

すべての生物は進化をします。「進化」という言葉はいろいろな分野で少し違った意味で使われていますが、ここでの「進化」は生物学的な進化を指します。［　　］、ダーウィンが述べた「多様性を持つ集団が自然選択を受けることによって起こる現象」のことです。

この進化の原理はとても単純です。まず、生物は同じ種であっても個体ごとに少しずつ遺伝子が違っていて、その能力にも少しだけ違いがあること、つまり能力に多様性があることを前提とします。

たとえば、池の中にミジンコがたくさんいて、みんな少しずつ泳ぐ速さが違うといった状況をイメージしてください。泳ぐのが速いミジンコは、泳ぐのが遅いミジンコよりもきっと餌(えさ)を多く手に入れることができるでしょうし、[注④]ヤゴなどの天敵から逃げやすいので長く生き残ってたくさんの子孫を残すでしょう。そして次の世代のミジンコ集団では泳ぐのが速いミジンコの割合が増えていることでしょう。

この子孫を残しやすい性質が集団内で増えていく現象が「自然選択」

と呼ばれます。多様性があってそこに自然選択がはたらくと、より子孫を残しやすい性質がその生物集団に自然に広がっていくことになります。

このように集団の性質がどんどん変わっていくことが生物学的な「進化」と呼ばれます。自然選択が起こると特定の性質が選ばれるので、一時的に多様性は小さくなってしまいますが、そのうち遺伝子に突然変異が起きてまたいろいろ性質の違う個体が生まれると多様性は回復します。そしてまた自然選択が起こり、進化が続いていくことになります。

ここで例として挙げた進化では泳ぐのが速くなるくらいの小さな変化ですが、おそらくこれを気の遠くなるほど続けた結果が、私たち人間を含む現在に生きる生物たちです。私たちの祖先は細菌のような単細胞生物だったと言われていますが、このような多様性と自然選択を気の遠くなるような数だけ繰り返して、より生き残りやすい性質を生み出し選んできました。その結果、現在の私たち人間や、現在生きているすべての生物のような複雑な生物へと進化していったと考えられています。

（市橋伯一（いちはしのりかず）『増えるものたちの進化生物学』による。）

（注）① イギリスの生物学者。 ② いろいろな材料を混ぜ入れて煮たもの。
③ 細胞の核に含まれる物質の一つ。 ④ トンボの幼虫。

問一 二重傍線（‖）部あ、うの漢字に読みがなをつけ、い、えのひらがなを漢字に直しなさい。

問二 波線（〰）部**ア**～**オ**の中には、品詞の分類からみて同じものがある。それは、どれとどれか。記号で答えなさい。

問三 筆者は、生命の起源について様々な仮説があるが、大多数の仮説で共通する点があると述べている。大多数の仮説で共通する点とは何か。二十五字以内で書きなさい。

問四 次の**ア**～**エ**の中から、本文中の［　　］の中に補う言葉として、最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア なぜなら　**イ** けれども　**ウ** すなわち　**エ** そのうえ

問五 筆者は、傍線（―）部のような進化は、能力の多様性を前提とし、自然選択という現象を繰り返すことによって起こったと述べている。筆者が述べている自然選択とはどのような現象か。能力の多様性とはどのようなことかが分かるように、五十字程度で書きなさい。

問六 次の**ア**～**エ**の中から、本文で述べている内容として適切なものをすべて選び、記号で答えなさい。

ア 生命が誕生する以前に、地球の大陸では隕石や落雷などが原因で最初の生物の材料となるような有機物質が生まれた。

イ 原始地球において「ダーウィンのスープ」がどのようなところで生まれたのかは、解明されていない。

ウ 生物が進化を続けていく過程では突然変異が起こり、様々な性質を持つ個体が生まれる。

エ 生物学的に考えるとすべての動物は進化をするが、細菌のような単細胞生物の中には進化をしないものもいる。

三　放送委員のあなたは、昼の放送で、職場体験を行った生徒の体験談をインタビュー形式で紹介することになった。次の文章は、ホームセンターで職場体験を行った森さんと一緒に作成している、放送原稿の一部である。この文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（9点）

放送委員：森さんはどのような仕事を体験しましたか。
森さん：商品を売り場へ補充する作業と棚の奥にある商品を前に出す作業を体験しました。売り場で作業をすることが多く、購入したい商品が置いてある場所を、1お客様がよく質問しました。
放送委員：そのような作業や接客をするときに大変だったことは何ですか。
森さん：商品名と商品の置いてある場所を覚えることです。お客様が困らないように、商品を売り場に素早く補充したり、お客様の質問にすぐ答えたりできるように、商品名と商品の置いてある場所を覚えることが必要でした。しかし、結局、どこの棚にどの商品が置いてあるかを、すべては覚えきれませんでした。
放送委員：なるほど。2商品の補充や接客のための準備として、商品の陳列場所をあらかじめ覚えておくことが大切なんですね。では、最後に、今回の職場体験を通して学んだことは何ですか。
森さん：相手に思いやりを持って3接することの大切さです。職場体験の二日目に外国人のお客様が来たときのことです。私は店員の方と二人でそのお客様の接客をしていました。[1]そのお客様はまな板をお探しになっていました。[2]店員の方はまな板の置いてある場所が外国人のお客様にとって分かりにくいと考えて、棚の場所をただお伝えするのではなく、まな板の置いてある棚まで一緒に行っていました。[3]私も普段から相手の立場になり、思いやりを持って接したいと思いました。[4]

問一　傍線部1は、受け身の表現にした方が適切であると考えた。傍線部1を、受け身の表現に直しなさい。

問二　傍線部2の放送委員の発言は、インタビューの流れの中で、どのような役割を持っていると考えられるか。その役割の説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　自分の解釈を交えて言い直し、聴衆の理解を促す。
イ　自分の意見を転換しながら、新しい話題につなげる。
ウ　相手の考えを確かめながら、疑問があることを伝える。
エ　相手の説明を繰り返し、自らの見解との差異を明らかにする。

問三　傍線部3を、「外国人のお客様」に対する敬意を表す表現にしたい。傍線部3を、敬意を表す表現に改めなさい。

問四　本文中に、次の［　　］の一文を補いたい。補うのに最も適切な箇所を、[1]～[4]の、いずれかの番号で答えなさい。

この店員の方のように、相手の立場になって考えることが、相手に思いやりを持って接するということだと思います。

問五　あなたは、この原稿では、森さんの職場体験での大変さが伝わりにくいと考え、次の［　　］の中のやり取りを、この原稿のはじめに付け加えることを提案した。

放送委員：森さんは、ホームセンターで職場体験を行ったそうですが、どのようなお店でしたか。
森さん：私が職場体験を行ったのは一般的なホームセンターで、日用雑貨を主に扱い、【　　】という特徴がありました。

次の［　　］の中のメモは、森さんが職場体験で店長から聞いた、一般的なホームセンターの特徴である。このメモの内容をふまえ、森さんの職場体験での大変さがより伝わる原稿となるように、【　　】の中に入る適切な言葉を考えて、二十五字以内で書きなさい。

・衣食住の中でも「住まい」に関連した商品を取り扱っている。
・日用雑貨など、商品の種類が非常に多い。
・売り場の面積にはかなりの広さが必要である。
・郊外の広い場所にあり、広い駐車場を設けていることが多い。

四　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（7点）

雲山（うんざん）といへる肩衝（かたつき）[注①]、堺（さかひ）の人所持（ア）したるが[注②]、利休（りきう）など招きて、はじめて茶の湯に出したれば、休、一向気に入らぬ体（てい）なり[注③]。亭主、客帰りて後、

利休　まったく気に入らない様子

当世、休が気に入らぬ茶入れおもしろからずとて[注④]、五徳に擲（なげう）ち破（わり）けるを、

つまらない　投げつけ割ったのを

かたはらに有りける知音（ちいん）の人もらうて帰り、手づから継（つぎ）て、茶会を催（イ）し、

今の世の中で　そばにいた知り合いの人が　自らつなぎ合わせて

ふたたび休に見せたれば、これでこそ茶入れ見事なれとて、ことのほかとりたてて

称美（ウ）す。よてこの趣きもとの持主方へいひやり、茶入れ秘蔵せられよ

ほめたたえた　だからこのことを　大切にしまっておきなさい

とて戻（エ）しぬ。

返した

その後、件（くだん）の肩衝[注⑤]、丹後（たんご）の太守、値千金に御求（さふら）め候ひて、むかしの

前述の　大金でお買い求めになりまして

継目ところどころ合はざりけるを、継なをし候はんやと小堀遠州（にほり）[注⑥]へ相談

合わなかったので　つなぎ合わせ直しましょうか

候へば、遠州、この肩衝破（わ）れ候ひて、継目も合はぬにてこそ利休も

小堀遠州　割れまして　合わないからこそ

おもしろがり、名高くも聞（きこ）え侍（はべ）れ。かやうの物は、そのままにておくが

興味深く感じており　評判高く世間に知られています　このような

よく候ふと申されき。

申し上げなさった

（藤村庸軒（ふじむらようけん）・久須美疎安（くすみそあん）『茶話指月集』による。）

（注）①　茶の湯で使用する抹茶（まっちゃ）を入れておく、陶器製の茶入れの一種。
②　千利休。安土桃山（あづち）時代の茶人。　③　茶の湯で茶をたてて接待する人。
④　鉄瓶などを置いて火にかけるための金属製の道具。
⑤　丹後国の領主。丹後国は今の京都府の一部。
⑥　小堀政一（まさかず）。江戸時代初期の大名で茶人。

問一　二重傍線（〓）部を、現代かなづかいで書きなさい。

問二　波線（〰）部ア～エの中から、その主語に当たるものが同じであるものを二つ選び、記号で答えなさい。

問三　亭主が、傍線（―）部のように行動したのは、雲山という茶入れをどのように感じたからか。亭主がこの茶入れに感じたことを、この茶入れに対する利休の様子が分かるように、現代語で書きなさい。

問四　小堀遠州は、丹後の太守に、雲山という茶入れについてどのような助言をしているか。その助言を、小堀遠州が述べている、この茶入れに対する利休の評価と利休がそのように評価した理由が分かるように、現代語で書きなさい。

五　あなたのクラスでは、国語の授業で、次の□の中の俳句の一部が紹介された。この俳句の【　　】の中に、下のA、Bどちらかの春の季語を入れ、春の情景について考えを述べ合うことになった。

【　　】新たな友と　歩く道

あなたの想像する春の情景を表した俳句にするためには、【　　】の中に入れる季語として、AとBのどちらがより適切であると考えるか。A、Bどちらかを選び、それを選んだ理由が分かるように、あなたの考えを書きなさい。ただし、次の**条件1**、**2**にしたがうこと。（6点）

条件1　一マス目から書き始め、段落は設けないこと。

条件2　字数は、百五十字以上、百八十字以内とすること。

	春の季語	意　味
A	山笑う	山の草木が一斉に新芽を吹き、花が咲いて山全体が明るくなる様子。
B	花曇り	桜の咲く頃の曇り空のこと。比較的明るく曇っている空の様子。

令和六年度　高等学校入学者選抜

作文問題

一　中学校生活の思い出

二　私が挑戦したいこと

三　私が関心を持っていること

四　印象に残っている人

五　学ぶことの楽しさ